

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792600033		
法人名	社会福祉法人 啓和会		
事業所名	グループホーム杵が森		
所在地	福島県河沼郡会津坂下町字稲荷塚127		
自己評価作成日	令和5年2月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	令和5年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が好きな事が出来る環境と、日々のコミュニケーションで笑顔が作れるようにしております。体調の変化に早急に気づき、利用者様が安心、健康で過ごせる環境を提供しております。入浴に関しても毎日希望が出るほど利用者様が楽しみにしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型サービスの役割を理解し、認知症カフェ開催に取り組んだり、地域の方との交流を積極的に行うなど、事業所の持っている力を地域のために役立てようと取り組んでいる。ケアの質の向上を図るため、全職員が委員会活動に参加、公平な人事考課制度を導入し、職員が意欲を維持・向上できるようにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者様の気持ちを尊重し、笑顔で元気に過ごしていただけるよう関わりを深める」という理念を玄関や台所など、常に目に入る場所に掲示している。またケアの中に理念が取り込まれているか確認している。	日々のケアの中で、声掛けが上手くいかなかった時など、全職員で検討が行われるときに理念が活かされていると感じている。理念に基づき人事考課で目標設定をし、評価の材料として介護技術向上を図る活動をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中で外出の制限がある為、参加できていない状態である。	事業所の年間行事の中で地域住民の方に、定期的に訪問してもらい交流している。地域の行事に参加し、地元の祭りにも参加している。認知症カフェの段取りの中でコロナ禍になってしまい実践できなかったが、収束時点での再開を計画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の委員の方々に、ホームの利用者様の状況や認知症について現状をお話して、認知症についての理解を深め、なおかつアドバイスを頂いている。現在は運営推進会議は書面での配布しか行っていないが、参加者からの意見を聞いて取り入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、施設の現状を報告し、問題点や困っている事について意見や助言を頂きサービスの向上に努めている。	会議で事例を提供し、不穩の利用者の対応の仕方のアドバイスや案を貰い、ケアの現場で実践している。会議前に発案する内容をまとめて会議自体の活性化を考えている。会議を事業所のケアの質の向上に役立てることができるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の状況をお話するとともに、不明な点や改善が必要な点がある時は相談に伺い意見や助言を頂いている。	市町村と連携するために、その都度報告・連絡・相談を心掛けている。事業所の持っている力を活かし、地域に貢献するため、高齢者の独居の状況を市から提供してほしいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は日中はしておらず、利用者様の動きを素早く把握し、すぐに声掛けてその方の意思の確認する。声掛けの内容がスピーチロックにならないようその都度指導を行っている。	言葉の拘束について気づいたときは、身体拘束委員会を行い全職員に気を付けるよう周知している。身体拘束をしないケアを学ぶために法人の、内部研修に参加している。利用者一人ひとりの一人歩きや外出の傾向を把握し対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設け、3カ月に1回の会議を行い各職員に意識を周知する。職員一人一人の精神面も考え、お互いに声を掛け合いケアをしていくことで虐待へとつながらないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	御家族の中に、成年後見制度を利用されている方が1名おり、研修会等で勉強する機会を持ちながら職員の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に十分説明し理解や納得して頂いた上で契約を結んでいる。契約後も話しやすい環境を作り、疑問点や不安等に対して、常に相談に応じれるようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様ごとに担当の職員がおり、利用者様は随時担当がお声掛けしている為、御要望などに応える事が出来ている。また、ご家族については、毎月のお手紙等で、様子などを報告しており、御意見があれば電話できるようにしている。	利用者・家族から常日頃、労いの言葉を貰っている。いただいた意見や要望を共有できるように、ファイルに綴り閲覧できるようにしている。利用者・家族からの意見や要望が、事業所のケアサービスの質の向上に役立つものと理解している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議は毎月及び利用者様の状態に変化が出た時に開き、職員の意見や提案を聞き、運営に反映している。また、施設長等月に何度か訪問し、施設の状態確認や相談等を聞く機会を作っている。	職員会議で自由に発言する場を設けて、食材や尿取りパットについて意見が出されている。事業所運営のため、委員会活動を全職員で行い、偏りなく担当を持って貰っている。業務に貢献した職員には人事考課で評価し、次のステップに繋がられるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいが出るよう人事考課を取り入れ、目標を設定し向上心を持って職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	偏りが無いよう満遍なく研修に出ており、研修で身に着けた知識と技術を、他の職員に伝達も出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の、グループホーム・小規模多機能連絡会に参加し、交流や情報交換を行いサービスの向上への取り組みと、待機者の情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご本人、ご家族に管理者や介護支援専門員から生活の状況等について伺い、要望や不安な点についても確認したことをサービスに反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査の際に困っている事や不安な点について要望を聞くようにしている。また、入所後もご家族と定期的にお話する機会と毎月の手紙を作り、その都度困っている事について相談できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込みの相談時に、ご本人とご家族の状況、希望等を勘案して入所時のニーズを見極め、適切なサービスが提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活において出来る事は、無理しないようにご利用者様に伺いながら協力して頂けるよう努めている。また、利用者様の状態等を見守りながら支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の日頃の様子等についてご家族に毎月文章や電話、来訪時に報告している。問題等がある場合は、ご家族の意見を聞き相談しながらケアを行うよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から通っているかかりつけ医へ引き続き受診できるように支援し、馴染みの関係が継続できるよう配慮している。コロナ禍の中で面会に制限があるが、御家族様の面会は定期的に来苑されている。	馴染みの美容室に出かけたり、友人の面会を受け入れている。携帯電話や事業所の固定電話で馴染みの人と話して貰っている。友人、近所の人、家族、親族、その他の人と関係が継続できるよう、面会、外出、外泊を勧めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性、個人の性格、認知症の状態を考慮し、席の配置に気を配っている。利用者様同士でトラブルになりそうな時は、職員が間に入り良好な関係が築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前入所されていた方の配偶者が、その御家族様伝いに介護サービスが必要となった事で、入所に繋げる事が出来た。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時や定期的にご本人から希望や意向の把握に努めている。また、季節ごとの行事食を取り入れながら、以前の懐かしい暮らしに近づけ、潤いある生活を送れるように努めている。	要望あったものはすぐに手配し、把握した思いや意向を書類に残し職員間で共有している。思いや意向の把握するため、日々声かけをしている。困難な方には、これまでのことをよく知っている家族を交え、本人の視点に立って話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に生活歴や馴染みの暮らし方等の把握を行った上でサービスを提供している。入所後もご家族より以前の様子等を伺い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	随時、日頃の過ごし方や心身の状態等を確認し、職員同士で共有し、ご利用者様の気持ちに添ったケアを提供出来る様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族に今の現状や今後の生活の希望等を伺い、職員間でも状態の把握や日頃の様子等について話し合い、プランに反映させている	その人の持っている、残存機能を活かしたり、維持できるよう計画している。変更時は、医療機関の意見と現場内での意見を精査している。現場で実践的な対応ができるよう、計画書は職員が見やすい場所に配置している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が日々気付いた事を介護記録やチェック表、申し送りノートなどに記録し、その活用により情報を共有している。記録された内容はカンファレンスを行いケアの改善や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の心身の状況を全職員が把握し、変化がみられた時はその都度カンファレンスを行いながら、柔軟にサービスの提供が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため、外部との関りが薄い状態だが食材の買い物の際には、地元の物を選び購入している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診対応はコロナ禍の為、施設で対応しているが、その都度状態をご家族に報告し共有している。	協力医療機関が定期受診に協力してくれている。歯科や耳鼻科などの専門診療科目は必要に応じて対応している。受診はコロナ禍のため、職員が対応している。受診結果は、電話や家族の手紙にて伝え共有をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師はいないが、常に異常の発見に努め、1日2回のバイタルチェックを行い、状態の変化等あれば速やかに協力病院や、かかりつけ医に受診対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供を行い出来るだけ早期に退院出来るように病院関係者へ相談している。また、病状の把握をし、入院が長期になる場合はご家族とも話し合い、退院後の方向性についても、ご家族を交えて話し合うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期について、ご家族に契約時に説明し、入所後も状態に合わせて話し合いをしている。その中で事業所として出来ることや今後の方向性についても理解して頂きながらケアに取り組んでいる。	契約時に看取り対応が出来ない事を伝えている。重度化や終末期に対応するために職員に内部研修を行っている。利用者が重度化した場合は、重度化対応の施設を紹介し、終末期を迎えた場合、入所が決まるまで寄り添った対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時に救急隊に渡せるように、利用者様ごとに個人情報をもとめた緊急時連絡票を作成している。また、事故発生時のマニュアルは目につくところに掲示し、事故等発生時に備えている。全職員、救命講習の研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、避難出来る方法を身につけており、訓練に参加していない職員も災害時のシュミレーションを出来るよう周知している。また、緊急連絡網も目につくところに掲示しており、全職員が把握している。	訓練時に、消防署や地域の方の協力や参加を得ている。消防署立ち合いの訓練後に、訓練全体の流れの見直しをして貰っている。職員は年に一度以上訓練に参加できるよう、シフトの段階で前回の職員と被らないようにしている。夜間火災を想定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様が人生の先輩である事、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけに注意しながら、ケアを行うよう努めている。また、職員の声掛けに指導が必要な場合は、やり方を確認したうえで、アドバイスや指導をしている。	職員は、尊重やプライバシーを考え、言葉に注意しながら声掛けを行っている。管理者は尊重やプライバシーに関して、事例があるたびに指導している。利用者同士で、尊重やプライバシーを損ねるようなときは、職員が間に入れる距離で見守りをして対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「毎日お風呂に入りたい」との希望に沿って、毎日入浴を行っている。本人希望により入りたくない時には、本人の意思を尊重し、入浴拒否が続く場合は声掛けを配慮し対応する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望やペース、その日の状態等を把握した上で、ご本人の希望に添ったサービスとケアの提供を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容が必要な場合は、コロナ禍の為、訪問理容が来苑し散髪を行っている。整容や、更衣の際には、御本人に聞いて服を選んでいただき、バランスが取れた身だしなみが行えて、一日快適に過ごせるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	状態を考慮し声掛けを行いながら、行事食の下ごしらえの、野菜の皮むき等行って頂いている。昔を懐かしみながら、草餅作り、笹巻作り、干し柿作り、鏡餅作りに参加して頂いている。	メニューは職員が作成し、栄養と彩を心がけている。食事は自分のペースでできるようにしている。一人ひとりの食べる力に合わせて調理、職員も利用者と同じものを食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録に記入し、1日の摂取量を把握しながら、好みの飲み物を提供し、水分の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で歯磨きができる方には行って頂き、難しい方には一部介助や声掛けを行い、出来る部分はご自分で出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄能力に合わせた支援を行い、残存を活かし自立を促している。パット交換が困難な方には、夜間不快な思いをしないように配慮しながら取り換えている。入所時紙パンツをはいていた方も、本人より布パンツにしたいとの意向を受け現在対応している。	職員都合にならず、布パンツを使用できる方は使用して貰えるようにしている。オムツからリハビリパンツ、そして布パンツなどへ自立に向かった例があり、状況に合わせてながら最小限のパットを使用している。トイレ誘導は、その方に合った声掛けを大切にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量が減少しないように配慮し、飲みたくない方や、量を一度に摂取出来ない利用者様には、小分けに提供したり、利用者が摂取していただけるような声掛けを行っている。また、便通に良い食事の提供や、排便の間隔を把握し、必要に応じてかかりつけ医にも相談している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日実施しており、一人ひとりの希望に合わせて、入浴して頂いている。また、タイミングについても職員が声掛けし対応している。	入浴を嫌がる人はおらず、皆さん楽しんで入浴して貰っている。入浴剤やその人の好みのもを活用などしている。脱衣所と浴室の温度差をなくすよう、入浴開始2時間前から温め、ヒートショックを防いでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	四季を通して気持ちよく休めるように、室温を調節し休んで頂いている。不眠時には安心出来るような声掛けと傾聴をし、対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時にかかりつけ医からのお話やお薬の内容等を受診記録ノートに記載し、職員間で共有している。また、副作用等についても確認しておき、ご家族やかかりつけ医に相談や報告を行い、早期対応出来るように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事食の準備時に、野菜の皮むき等を手伝って頂き、自分がそこに参加しているとの役割、生き甲斐に繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ禍の為、外出は病院受診のみとなっている。	外の空気や光を浴びることの意味や役割を考慮し、近くの公園など職員と一緒に散歩に出かけている。行事で出かけるときは、事前に発議書を用いて段取りをしている。季節を楽しむ事のできる花見や紅葉狩りに出かける機会を多くしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金はご家族よりお預かりし施設の金庫で管理している。個人的な衣類等は、必要に応じてご家族と相談しながら購入を記録し、月に一度ご家族に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、いつでもご家族等に電話が出来ることをお伝えしている。また、ご自分でお話しがうまく伝えられない利用者様には、職員が電話で話しながら、ご家族とお話しが出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や飾りなど、季節を感じられるように工夫している。また、適切な室温等を心掛け、利用者様が不快にならないように配慮している。壁には行事の写真を掲示し、皆様に楽しんで頂いている。	利用者は、一人ひとりの居場所や好みの場所があり、共有空間で過ごすことが多い。歩行や移動のための動線を確保するために、重ならないように声掛けを順番に行っている。感染症対策で職員が出勤前に熱を測り、体調不良時には出勤せず事業所に持ち込まないようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファ、食堂にはカウンター席を設けて、自由に過ごして頂けるようにしている。居室が好きな利用者様には、一人で過ごす時間を大切にしているが、引きこもってしまわないように声掛けをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	ご本人、ご家族と相談し、自宅で使用していたものやご家族等の写真を置いたり、お祝いで送られてきた品々を、見えるところに飾っている。希望を伺いながら、居心地の良い生活が出来るように努めている。	身体状況に合わせて、ベッドなど家具の配置をその人に合わせている。自分の居室を間違わないよう居室の扉に名前を貼っている。清掃や衣替えは、居室担当が行っている。居室の入り口には、避難時の利用者の状況などが分かるネームプレートを設置している。。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が自立した生活が出来るように、テーブルやソファの位置などを工夫している。建物内はバリアフリーになっており、見渡しの効く安全な環境を提供している。		